

飯山北コミュニティ

みんなであげ合おうまちづくり

飯山北コミュニティでは、超高齢化社会が目前に迫るなか、地域の福祉ネットワーク「桃の里福祉推進協議会」を立ち上げました。同協議会では、高齢者問題についての課題・体制整備に取り組み、支え合える地域を目指しています。

福祉サービスの隙間を埋める

飯山北コミュニティでは、超高齢化社会に備え、高齢者を支援する「たすけあい飯北サービス事業」を平成26年に開始しましたが、十分に利用されてはいませんでした。その現状を打開するため、地域の民生児童委員会、コミュニティ、

福祉施設、福祉ママ会、市職員、市社会福祉協議会などのメンバーで平成29年に立ち上げたのが、「桃の里福祉推進協議会」です。同協議会で、たすけあい飯北サービスの内容や問題点などを、約3年間にわたり協議を重ねました。そして、福祉に関わる各団体がすでに実施しているサービスと競合しないよう、それらの「隙間を埋める役割を担うこと」を事業の柱として運営することに決めました。

高齢者に生きがいを

福祉サービスの「隙間を埋める」ために同コミュニティが実施しているのが、高齢者認知予防教室の「かがやきくらぶ」



「かがやきくらぶ」で生け花を学ぶ

同コミュニティの目標は、「地域全体で自然に見守りができている状況」を作り出すことです。例えば、散歩時などには新聞がたまっていないか、電気がついていないかを確認します。また、子どもの登下校時には家の前で見守りをするなど、住民の皆さんが「おせっかいさん」になることが目標です。それに向かって、同コミュニティの取り組みは続きます。

みんなが「おせっかいさん」に

楽しんでいます。また、新しいサロンの運営も検討しており、高齢者を対象にレクリエーション、趣味活動、介護予防活動などを開催し、生きがいを高めることで孤独感や引きこもりの解消を目指しています。



みんなであげ合おうレクリエーション

です。この教室では、日替わりの学習プログラムを毎週実施。参加者は各種学習講座、料理づくり、カラオケ、手芸などを



飯山北コミュニティ会長 三好 守さん

地域共生のまちづくりを目指して

日本の全人口の4人に1人が75歳以上となる「2025年問題」に向けて、昨年から「桃の里福祉推進協議会」を開催し、地域福祉の課題や解決策について意見交換をしています。

会議では、高齢者のひとり暮らし、認知症、生活支援、空き家、居場所などたくさん課題が出され、中でも生活・移動支援、認知症、居場所づくりを重点に意見交換が行われています。平成26年から実施している「たすけあい飯北サービス事業」の見直しや「生き生きサロン」の拡充、「高齢者移動サービス」の体制づくりに現在取り組んでいるところです。

これからも、みんなの力で助け合いのまちづくりが出来るよう、高齢者生活支援問題に取り組みたいと思います。